

内山七郎右衛門
うちやましちろえもん
船狼藉・1807 =

幕末に、越前国大野藩で、弟隆佐と蝦夷との間の物産交易商社を経営し、藩財政を再建した。

越前国大野藩士の子に生れる。

高田屋拿捕・1812 = 5歳：この年、弟隆佐が誕生。

伊能測量終・1816 = 9歳：

水野忠成老中1818 = 11歳：

異国船打払令1825 = 18歳：

若くして江戸に出、朝川善庵の門に入って経済の学を修めた。

富籤流行・1830 = 23歳：この頃、藩主土井利忠に濟世の才を認められ、

産物用掛・銅山頭取などに任じられ、

高島砲術・1834 = 27歳：

大塩平八郎乱1837 = 30歳：

藩財政が窮迫してきたため、

天保改革弾圧1842 = 35歳：藩の財政改革を命ぜられるや、

順天堂始・1843 = 36歳：

領民の反対を顧みず、利忠に勧め、商法を布行して貨殖の策を講じ、

阿部正弘首座1845 = 38歳：

万次郎帰国・1852 = 45歳：

ペリー来航・1853 = 46歳：

開国開港・1854 = 47歳：*国産用掛に任じられ、主役の番方を免じられて専念することになり、

安政大地震・1855 = 48歳：命を受けて大坂に出張、商社{大坂大野屋}を開設して、藩の産物刻み煙草の販売をはじめ、

松下村塾・1856 = 49歳：弟隆佐が箱館開店の伺いを幕府に提出、粘り強い交渉で許可を得、藩主から蝦夷地総督に任命され、

番書調所・1857 = 50歳：弟隆佐が蝦夷地に渡るも、幕府直轄方針のため、北蝦夷(樺太)に進み、入植地を定め、

五ヶ国条約・1858 = 51歳：*弟が建造させていた洋式の帆船{大野丸}が完成、以後、兄が内を治め弟が外に務める体制によって、各地に商社を設け、物産を交易して利を挙げ、藩財政を豊かにした。また病院を創設して種痘を普及し、物産の播殖、救荒の設備に尽力した。内山兄弟の名は四方に聞え、前福井藩主松平慶永から礼遇された。

安政の大獄・1859 = 52歳：大野に{大坂屋}を開く。弟隆佐が箱館に赴き、幕府に蝦夷地の重要性を訴える膨大な意見書を提出。奥尻島で難破したアメリカ船の船長が、箱館のロシア領事を通じて、{大野丸}の出動を依頼され、見事に救助して大野藩の名を挙げ、

桜田門外変・1860 = 53歳：藩主が北蝦夷での農漁の経営の自由を許可されたが、

遣欧使節・1861 = 54歳：

禁門の変・1864 = 57歳：この年、*弟隆佐が死去し、{大野丸}が根室沖で難破するなどして頓挫、

明治維新・1868 = 61歳：北蝦夷から撤退に至る。維新後は、

初の日刊新聞1870 = 63歳：

士族授産に尽力し、また節儉によって冗費を省き、その蓄財は公共事業に寄付した。

明治6年政変 1873 = 66歳：

大久保暗殺・1878 = 71歳：明治天皇の北陸巡幸に際して今庄に召され、岩倉具視より通商殖産の功を賞されて、

沖縄県編入・1879 = 72歳：

明治14年政変1881 = 74歳：没した。
贈正五位。

「人づくり風土記(福井)」、